

研究レポート No.757 岩手県農業研究センター

平成26年岩手県産水稻の作柄・品質に影響した要因の解析

【1 27年度の主な対策】

- (1) 最高分けつ期の乾物重、稲体窒素濃度、土壌窒素濃度の動向を見極め、本年のように収量及び品質確保がなされるよう適切な追肥に努めましょう(図1)。
- (2) 穂いもちが多発したため、翌年の伝染源量は多いと推察されます。育苗ハウス周辺の衛生管理(稲わら、籾がらなどを育苗ハウス付近に置かない)や補植用取置苗の処分をより一層徹底し、移植後は圃場をよく観察しましょう。

【2 26年度の水稲生育の特徴】

- (1) 6月から7月にかけて高温多照で経過したため、有効茎は早期に確保でき、適正な追肥の実施により穂数、㎡当り総粒数ともに多くなりました。
- (2) 登熟期間は低温傾向で経過し、前半は寡照で経過したため、粒の肥大は緩慢でした。
- (3) 登熟歩合、玄米千粒重は平年を下回りましたが、㎡当り総粒数が多いことから、精玄米重は平年を上回りました。
- (4) 2次枝梗粒は1次枝梗粒に比べ、整粒が少なく未熟粒及び死米が多くなり、1.9mm篩調整済みの玄米への死米混入割合は平年より若干多くなりました(図2)
- (5) 8月は穂いもちの感染に好適な多雨寡照となり、収穫期の穂いもち発生圃場率・程度とも平年より高くなりました。

作況指数：岩手「105」(平成26年12月5日公表)
 水稻うるち玄米の1等比率：92.7%(平成26年12月末日現在)
 ※農林水産省東北農政局

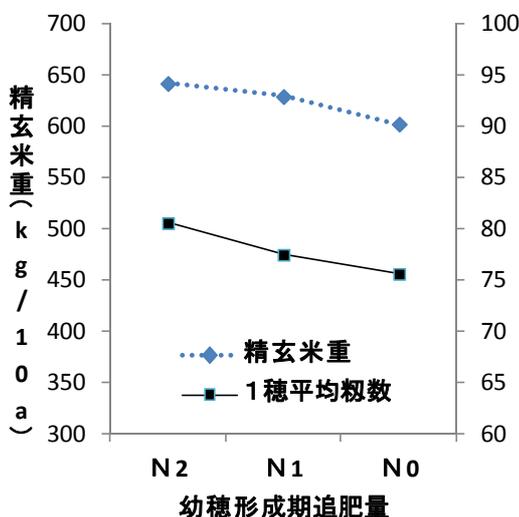


図1 幼穂形成期追肥量と精玄米重、一穂平均粒数の関係 (H26)
 注) 農研セ(北上)作期1ひとめぼれ5/7移植
 ※N2=窒素成分2kg/10a、N1=窒素成分1kg/10a
 N0=窒素成分0kg/10a

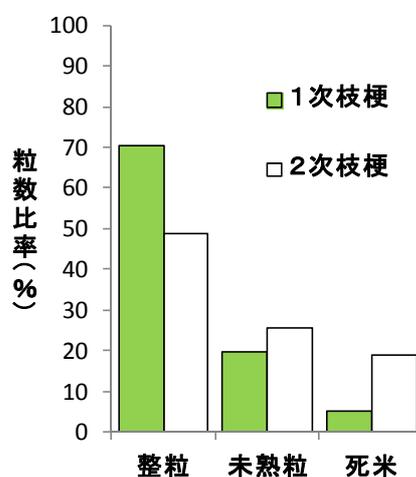


図2 枝梗別品質 (H26)
 注) 農研セ(北上)作況ひとめぼれ5/15移植
 幼穂形成期N成分2kg/10a追肥区
 ※品質調査のサンプルは粗玄米

【3 留意事項】

全県を対象とした解析であり、各地域の実態と異なる場合があります。